

2022.02.17

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）における テーマ事業「シグネチャーパビリオン」に協賛します

阪急阪神ホールディングスは、大阪湾の人工島「夢洲」（大阪市此花区）において、2025年4月13日（日）～10月13日（月）の184日間にわたり開催される、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマ事業「シグネチャーパビリオン」に協賛することを決定しましたので、お知らせします。

当社は、大阪・関西万博の中核事業である本事業への協賛を通じて、大阪・関西万博のテーマ『いのち輝く未来社会のデザイン』を体験できる「シグネチャーパビリオン」の実現や、未来社会に向けたメッセージの発信に協力するとともに、大阪・関西万博が、国内外の多くの方々へ大阪・関西の魅力や当社グループを知っていただく機会になればと期待しています。

以上

【ご参考】（公益社団法人2025年日本国際博覧会協会リリースより引用）

■テーマ事業「シグネチャーパビリオン」とは

テーマ事業は大阪・関西万博を象徴・代表する事業であり、8人の専門家がつくるパビリオンは、テーマをそれぞれの哲学から語り深める「署名作品」でもあることから、「シグネチャーパビリオン」と名付けました。8名のテーマ事業プロデューサーが大阪・関西万博のテーマ『いのち輝く未来社会のデザイン』を、それぞれ固有の観点から解釈、展開し、未来に生きる人々に繋ぎ渡すパビリオンを建設します。

■テーマ事業名及びテーマ事業プロデューサー（8名）

- ・「いのちを知る」 福岡 伸一（生物学者、青山学院大学教授）
- ・「いのちを育む」 河森 正治（アニメーション監督、メカニックデザイナー）
- ・「いのちを守る」 河瀬 直美（映画監督）
- ・「いのちをつむぐ」 小山 薫堂（放送作家、脚本家）
- ・「いのちを拓げる」 石黒 浩（大阪大学教授、ATR 石黒浩特別研究所客員所長）
- ・「いのちを高める」 中島 さち子（音楽家、数学研究者、STEAM 教育家）
- ・「いのちを磨く」 落合 陽一（メディアアーティスト）
- ・「いのちを響き合わせる」 宮田 裕章（慶応義塾大学教授）

【ニュースリリース配付先】 青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ

同日付で公益社団法人2025年日本国際博覧会協会より本内容と同様のリリースがされています。